

2010年7月23日

市川市長 大久保 博 様

緑のみずがき隊  
市川緑の市民フォーラム  
真間川の桜並木を守る市民の会

## 大柏川流域の「水と緑の回廊(コリドー)」の市民政策提案書(第三次)

大柏川流域は市川の東北部に位置し、かつては台地に梨園などの耕作地や山林、大柏川沿いの低地に水田が広がっていましたが、昭和40年代以降、水田が消失し住宅や霊園の開発が進みました。現在でも市域の中で比較的自然的豊かな地域ですが、都市化の進展に伴って、自然環境の分断・縮小・消失が進み、多くの生きものの生息・生育空間が孤立してきています。

私達は、三十年に及ぶ真間川の環境保全、北方遊水池の自然環境復元、休耕田の再生と環境教育など、暮らしの視点から自然と文化を守り育てたいと地道に取り組んでまいりました。これら活動を通じて、個々の保全だけでなく残された自然環境を「水と緑」でネットワーク化し地域全体の自然のポテンシャル(生きものの生息・生育環境の質、種多様性)を向上させる総合的な対策が必要であるとの認識に至りました。つまり、多くの生物種を保全するためには、生息・生育の拠点となる水辺や樹林、草地などを確保するとともに、それらを相互に連結して生物の移動を保障し、地域全体の生態系を保全・再生・創出する「水と緑の回廊(コリドー)」が不可欠であると、痛感しております。

このため、私達は、2006年2月、貴職に「大柏川流域の『水と緑の回廊(コリドー)構想』の提案書」を提出いたしました。その後、同年8月～2007年4月に同構想を4区域に分けて現地見学会「水と緑の探検」を4回延べ99人の参加で行い、さらに2007年7月からはこれら見学結果を基に検討会(2010年3月現在までで16回実施)を重ね、『水と緑の回廊基本計画』をまとめてまいりました。

この『水と緑の回廊基本計画』は、前述の構想に基づき、自然と人々が共存し、市民が暮らしの中で生きものと豊かにふれあえる場を保全・再生・創出する「まちづくり」を、区域毎に短期・長期の政策に分け具体的に事業として明示しています。ここに、私達は、大柏川流域の『水と緑の回廊基本計画』を立案するとともに、市川市が実施すべき事業を市民として政策提案いたします。

市川市は市民憲章で二本柱の一つとして「クリーングリーンいちかわ」を掲げております。また、都市計画マスタープランなど「まちづくり」の基本となる計画で、市川市北東部では「豊かな自然環境を大切に育み、自然と歴史と共生した住みやすいまちづくり」が謳われております。貴職におかれましては、この提言の趣旨をお汲み取りくださいまして、是非前向きに取り組んでいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、全4回の大柏川流域の「水と緑の探検」の中で第1回と第2回の方は2008年4月に第一次で提出し、第3回の方を第2次として2009年1月15日に提出し、今回は第4回の方を第三次として提出いたします。

連絡先：

緑のみずがき隊	隊長・谷藤博喜	市川市柏井町4-329-5	047(337)1650
市川緑の市民フォーラム	事務局長・佐野郷美	市川市曾谷7-24-3	047(373)3219
真間川の桜並木を守る市民の会	事務局・鳥居雪子	市川市八幡6-9-6	047(333)0852

# 大柏川流域の「水と緑の回廊(コリドー)」の市民政策提案(第三次)提案書

## 目次

<b>8 . 大柏川「幹線軸」自然環境保全・再生・創生計画</b>	<b>3</b>
<b>【短期政策】</b>	
1 ) 大柏川緑化計画	3
2 ) 大柏川の低水路・河川敷の多自然型工法	4
<b>【中期政策】</b>	
1 ) 大柏川沿い農地の保全と遊休農地再生計画	5
2 ) 小水路の保存・再生計画	8
<b>9 . 大柏川第二調節池予定地とその周辺等「水と緑の拠点」   自然環境保全・再生・創生計画</b>	<b>8</b>
<b>【中期政策】</b>	
1 ) 大柏川第二調節池計画	8
<b>10 . 大柏川浄化施設緑地・地区公園予定地等「水と緑の拠点」   自然環境保全・再生・創生計画</b>	<b>9</b>
<b>【短期政策】</b>	
1 ) 市川北高校跡地利用計画	10
<b>【中期政策】</b>	
1 ) 地区公園計画	10

別添図 1 大柏川緑化計画

別添図 2 大柏川沿い農地現況図

別添図 3 水田及び休耕田の現況図

別添図 4 地区公園ゾーニング図

別添図 5 地区公園計画図

資料 1 都市農業に関する資料

資料 2 大柏川第二調節池予定地現地調査概況報告

資料 3 大柏川第二調節池の自然環境の保全に配慮した築造を求める要望書

## 大柏川流域の「水と緑の回廊（コリドー）」の市民政策提案書（第三次）

今回は、第三次市民政策として、第4回水と緑の探検ルートに関連した提案をいたします。

私達、緑のみずがき隊・市川緑の市民フォーラム・真間川の桜並木を守る市民の会は、大柏川流域の「水と緑の回廊構想」を基に必要な具体的事業を洗い出して同基本計画を作成しました。市川市が自然環境の保全・再生・創生について、以下の事業を実施するよう、提案いたします。

なお、各事業は、地区毎に、次のように短期と中期の政策に分けて示します。

**短期政策** 早急を実施しなければならない箇所、予算が余りかからず市民協働で実施できる箇所、条例等で解決できる。

**中期政策** 重要かつ緊急性があるが、計画検討に時間がかかり、かつ予算が必要となる。

大柏川流域の「水と緑の回廊（コリドー）基本計画（第一次、第二次、第三次）」及び大柏川流域「水と緑の回廊（コリドー）構想」、水と緑の探検報告書、その他添付資料も合わせてご覧ください。

### 8 . 大柏川「幹線軸」自然環境保全・再生・創生計画

大柏川河川区域・河川沿い農地・大柏川第二調節池・浄水施設・地区公園

大柏川の河川区域及び川沿いの低地部を含めた地域は、大柏川流域の「水と緑の回廊」で「幹線軸」となる最も重要な部分で、大柏川沿いの自然度を高める必要があります。

具体的には、大柏川の水質の改善が基本となりますが、大柏川の管理用道路、堤防、河道（河川敷・低水路）の緑化や多自然型河川の再生・創生及び河川沿い農地を保全・再生することです。

さらに、流域の各支線軸との結びつきを視野に入れながら、この幹線軸の大柏川第二調節池緑地、浄化施設緑地、地区公園（計画）、親子ふれあい農園、大柏川第一調節池緑地と結びつけて、「水と緑」のネットワークを形成することが重要です。

すでに、水質浄化施設の稼働によりある程度の改善がなされ、水生植物のオオカナダモが茂り、日常的にはカメ・ヘビ・水鳥等が多く観察され、春にはコイの集団産卵も見られるようになってきています。また、昨年はアユが水鳥に捕食される写真が撮影されたりミニ自然園でモクズカニが観察されたり、東京湾とのつながりも確認されています。

#### 【短期政策】

##### 1) 大柏川緑化計画

都市河川として制限もありますが、大柏川の河道、堤防敷き、管理用道路の自然度を高めることが重要です。

(1) 堤防上の植栽計画（別添図 1参照）

## 堤防緑化の現状

大柏川の河川沿いの樹木は、大柏川第一調節池まで両岸にほぼ植栽されていますが、それより上流はほぼ右岸にあるのみで左岸はある程度植栽がされていますが、並木にはなっていません。

## 堤防の植栽計画

大柏川第二調節池までは、大柏川の両岸に並木植栽をします。別添図面の植栽箇所にソメイヨシノを並木状に植栽し、植樹帯には灌木（低木）も加えて植栽し自然度と景観を高めます。

## (2) 親水・ミニ広場の再整備計画（別添図 1 参照）

### 維持管理の現状

ベンチ等工作物は修理されていますが、樹木は管理が不十分で枯死・生育不良が目立ちます。

### 植栽計画

浜道橋と立之下橋のたもとにある両ミニ広場の樹木を補植し、管理の徹底を図ります。

さらに、立之下橋～天神前橋間の右岸にあるオープンスペースや堤防に市民と協働してハンノキやエノキ等を植え、河岸林を育成します。



浜道橋のミニ広場。樹木を補植して管理の徹底を。



立之下橋のミニ広場。ベンチは修理されたが樹木は枯れたまま。



天神前橋のオープンスペース。ハンノキやエノキ等で河岸林を。

## 2) 大柏川の低水路・河川敷の多自然型工法

### (1) 河道（低水路・河川敷）の現状

浜道橋から下流はコンクリート護岸ですが、低水路に砂泥州が形成され、マコモやガマ等の植生も見られ景観が良くなってきています。

浜道橋～天神前橋まで多自然型工法が行われており、低水路の水際には自然石や粗朶、木杭等で淵や瀬が形成され、生物の生息環境が整いつつあります。

その上流の保健医療福祉センター・引地橋までは、草土手の堤防になり低水路の水際は粗朶護岸が行われ



浜道橋から上流。瀬や淵ができ、アユの遡上も期待できる。

ています。保健医療福祉センター付近までオオカナダモが茂り、昨年は多数のコイが産卵しました。さらに上流は、現在、改修中です。

## (2) 河川改修計画の提案

### 浜道橋下流の河道計画

現在、砂泥州が形成され生物の生息場所も整いつつありますが、少なくとも大柏川第一調節池緑地の越流堤までは、生物の生息や移動を確保する河川敷を持った河道環境が必要です。

当面は、砂泥州の形成を見守ることとしますが、状況によっては積極的に植生回復を誘導する工法を採用し滲筋を造成する河道改善計画を検討します。

### 淵形成工法の提案

川には、生物の棲みかや休息の場として流れのゆるい淵の形成が重要な役割を果たします。

市川北高等学校脇はカーブになっており、淵の形成がし易い箇所です。現在、河川改修工事が進んでいますが、急傾斜のコンクリート護岸に根固ブロックや自然石を使用して深い位置に根固工を行い、淵を造成します。

### 上流部河道の低水路護岸工

市川北高等学校～大柏川第二調節池までの河道はほぼ直線です。

河川改修は以下の点に考慮します。

- ・堤防は並木を持った草土手とする。
- ・河道は河川敷と低水路のある空間とする。
- ・低水路は直線を避けて曲線を盛り込み、変化のある水深線を作るようにする。
- ・低水路の水際は、自然石・蛇かご・粗朶等の生物の棲みかとなる多孔質素材を使用する。

## 【中期政策】

### 1) 大柏川沿い農地の保全と遊休農地再生計画

#### 【なぜ、市川で今、農地が大切なのか】

都市農地は、以下のような多面的な役割を果たしています。

新鮮で安全な農産物の提供

身近な農業体験の場の提供

災害に備えたオープンスペースの提供

総合的な治水対策の視点からの重要性（雨水の浸透や貯留、地下水の涵養など）

都市のヒートアイランド現象の抑制

生物への生息空間の提供

潤いや安らぎ空間の提供

農地は生物の生息空間であり、必ずバクテリアや昆虫が棲み付き、すると野鳥や小動物も集まり、多様な生物の空間になっていきます。中でも、水田は生態的面から地域の生物多様性に果た

ず役割が大きく、近年注目されています。

市川市は、平成12年3月「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」(以下、農業経営基本構想)を策定し、農業経営基盤強化に向けて5つの基本方針を決め、「都市農業地域の特性を生かした市民と共生できる農業の推進」と「高齢者、女性にあった農業の推進」を盛り込みました。市川市北東部の台地部は農業振興地域に指定され梨園や蔬菜畑が「水と緑の回廊」の一翼を担っていますが、大柏川沿いの農地はまちづくりの方向が定まらぬまま市街化が進み虫食い状態になっております。大柏川沿いの農地は、大柏川流域の「水と緑の回廊の幹線軸」として重要な役割を果たしており、この農地を保全再生することは非常に大事です。今後は、農業経営基本構想に則って、武蔵野線以南は梨園や蔬菜畑として、武蔵野線以北はかつての水田に戻し、より多くの農地を保全・再生する取り組みが求められます。

### (1) 大柏川沿いの農地の現状

大柏川沿い農地の現状(別添図 2 参照)

大柏川沿いは、かつて大部分は水田で、現在は市街化調整区域(姫宮団地周辺を除く)ですが医療・福祉・教育等公共公益施設や宅地造成が進み、浜道通り沿いにはコンビニ・飲食等商業施設、建設・自動車関係の店舗、コンテナ賃貸倉庫等が進出し、年々、農地が減少しています。その農地も、武蔵野線以南はほとんど埋め立てられ梨園・蔬菜畑や荒地となり、同線以北の多くは休耕してアシ原湿地と化して都市的諸開発の予備軍になっています。

水田と休耕田の現況(別添図 3 参照)

現在の大柏川流域の水田耕作地は、下流部からは下記の通りです。

- ・市川農協本店北側
- ・市川市民プール南三二自然園
- ・法務局市川支局東側
- ・市川北高等学校北側
- ・大柏川第二調節池予定地の新橋西側

また、休耕田として、アシ原湿地としてまとまって残っているのは以下の通りです。

- ・法務局市川支局東側
- ・市川市保健医療福祉センター南側
- ・市川北高等学校北側
- ・大柏川県浄化施設南側
- ・NTT 電話交換センター北側

(大柏川第二調節池予定地の大部分は用地買収が進められていますので除外)

### (2) 大柏川沿い農地の保全再生の方針

都市農地の保全策について、市街化区域での農地保全として「生産緑地法」、農地を市民の利用に転換することを認めた「特定農地貸付法」や「市民農園整備促進法」ができ、都市農地の意義が認められるようになってきました。しかし、都市農地の継続維持は農業者の高齢化、後継者の担い手不足、相続等で非農家による農地保有等さまざまな課題を抱えています。

大柏川沿いの農地の保全・再生については、流域台地部の農業振興地域の農地とは違い、以下を基本方針とします。

市川市のまちづくりとして位置づけ、農業者（地権者）の一定の収益を確保し、市民に依拠しながら地域コミュニティを醸成する農業行政を実施する。そのために、市川市農業基本構想を基本に、以下の4項目を中心に取り組みます。

市民と共生できる農業

行政、農業委員会、農協、農業者、市民と協働で進める農業の推進

老人や女性にあった農業

高齢者や女性が土に親しみながら健康を維持し、楽しく働くコミュニティを築く農業の推進

将来を担う子供たちに農業体験を進める農業

農業体験を通して、感じる・発見する・知る・考える・食べる等子供たちの知性・感性を育む農業の推進

地産地消を推進し、市民と生産者との交流のできる農業

### (3)市民参加型地域農業構想（添付資料1 参照）

市民参加型地域農業を実施する範囲

大柏川流域の農地は、市街化区域は「生産緑地制度」に、大柏川流域の台地部は農業振興地域に指定されているので、この構想を実施する範囲は大柏川沿いとし、武蔵野線以南は梨園と蔬菜畑として、以北は水田として保全・再生します。

まず先行的に、親子ふれあい農園、市川北高等学校跡地、保健医療福祉センター南側休耕田を市民参加型農業のモデル地区にします。以降は、この取り組みをさらに発展させ、大柏川沿い農地全域に広めます。

農業体験制度の創設

市川市も年々高齢化が進み、高齢者が地域で無理なく働き、日常生活も生き生きと暮らせることが求められます。柏市では豊四季台団地で「農園で働いて長寿に」とプロジェクトが始められようとしており、農業が健康や福祉の面でも見直されています。

市川北高等学校の北側では農業体験が「市川米っ人くらぶ」によって取り組まれており、市川北高等学校の跡地利用も当構想に関連して検討します。

#### ・農業体験学校の開設

小川再生親子ふれあい農園全域と北高校東側の校庭を水田と蔬菜畑に再生し、主として高齢者や婦人中心の農業体験学校を開設します。経験を積んだ卒業者が大柏川沿いに設立された市民参加型農園（市民農園、オーナー制度農園、トラスト制度農園等）の指導者（有料ボランティア）になれるよう、農業指導マイスター制も導入します。

#### ・保健医療福祉センター南側の休耕田再生計画

初めの水田再生は、地権者と協議し行政が再生工事を実施します。

初めの運営は行政が主導し、地権者・市民ボランティアが協力します。その後、市民交流を基本にコミュニティの醸成にも結び付くトラスト制度によって運営組織をつくり、地元農家や農業指導マイスターの指導のもと、水田を耕作します。

## 2) 小水路の保存・再生計画

大柏川沿いには、低地部の水田開発によりできた小さな土水路があります。周辺の斜面林下から湧水を集めて大柏川に流れ込んでいるものもあり、地域の水循環を保全する上で重要です。この水路は草土手で水質も比較的良く、生物の生息場所となっており、斜面林等の周辺緑地と大柏川沿い低湿地を結ぶ生物の移動経路ともなっています。農地と合わせて小水路を保全・再生します。

立之下橋のミニ広場に流れ込む小水路があり、広場整備に合わせて水路を保全・再生します。浜道橋?宿之下橋間の左岸に斜面下から延びる小水路があり、保全・管理します。



立之下橋ミニ広場に接してマコモにおおわれた土水路がある。



浜道橋?宿之下橋間の小水路。斜面林下の水を集めて大柏川に流す。

## 9. 大柏川第二調節池予定地とその周辺等「水と緑の拠点」自然環境保全・再生・創生計画

大柏川第二調節池・ハンノキ林・自噴泉・ホタルの里

千葉県は、真間川水系の水害を防ぐ総合的な治水対策の一環として鎌ヶ谷、船橋、市川の市境に約19haに及び大柏川第二調節池の築造を進めています。この予定地はアシやヤナギが茂り、ハンノキ林の中を湧水からの小川も流れて、自然豊かな湿地になっています。周辺の斜面林下にはヘイケホタルの生息地があり、行政・地権者・市民団体により保全活動が行われています。

### 【中期政策】

#### 1) 大柏川第二調節池計画

治水と自然環境保全・復元を両立させて、大柏川第二調節池を築造し利用します

##### (1) 予定地の現状(添付資料2 参照)

かつて水田でしたが、現在は、湧水が豊富でアシやヤナギが茂る湿地です。鎌ヶ谷・船橋・市川市域で最大級のハンノキ林があったり、千葉県レッドデータブックに載るタコノアシやニホンアカガエル、ミドリシジミなど稀少種が確認されたり、オオタカなど猛禽類が餌をとったり、生物多様性に富んでいます。

予定地の周りには、大町公園、市川霊園、市川青少年の森、丸山緑地、藤原市民の森、鎌ヶ谷ホタルの里、囃子水公園、貝柄山公園など公共緑地、さらに台地上の社寺林や梨園・蔬



菜畑が取り囲み、予定地はそれらの中央に位置しています。都市化が進む中で孤立しがちな緑地を結ぶ生態系のネットワークの要となっています。予定地内の自然のみならず周辺緑地との生物の交流を考慮し、「水と緑の回廊」に大変重要な湿地です。

予定地内とその周辺は、自噴するほど湧水が豊富で、過去の水田の水路も一部が残っています。地域水循環を保全することは生態系ネットワークを育む上で必要不可欠です。

## (2) 大柏川第二調節池の整備・利用の基本方針（添付資料3 参照）

「自然が生きてこそ人間が生きる」という観点に立ち、人と水辺の生きもの達の共存をはかります。そのために、治水と自然環境保全・復元を両立させます。

以下の点を配慮して、重層的な利用を進めます。

水害を防ぐ。

総合的な大柏川流域治水対策の一環として、治水安全度の向上をはかる。

多様な野生生物とその生息環境を保全・復元する。

ハンノキ林やまとまったアシ原・ヤナギ林など低湿地の自然環境を保全・復元し、オオタカなど猛禽類が生息できるよう生物多様性を高める。

地域水循環を保全・復元し、水辺を連続させる。

湧水や小水路を保全・復元して本川と湿地部・周辺斜面部を連続させ、地域水循環や生物の生息空間の確保を増進する。

周辺の緑地と生態系ネットワークをつくる。

大町公園、市川霊園、市川青少年の森、丸山緑地、藤原市民の森、鎌ヶ谷ホテルの里、離子水公園、貝柄山公園など公共緑地、台地上の社寺林や梨園・蔬菜畑と共に、地域全体の自然環境の向上を図り、潤いある緑豊かなまちづくりの一環と位置付ける。

地域の歴史や文化を継承し、発展に寄与する。

ふるさとも感じる体験ができ、お年寄りから子供まで世代を超えて交流し、地域の歴史や文化を再発見する。

## 10 . 大柏川浄化施設・地区公園予定地等「水と緑の拠点」自然環境保全・再生・創生計画

大柏川浄化施設・地区公園予定地・自噴湧水・市川北高校運動場

この地域は大柏川の中流域で、左岸には大柏川浄化施設（用地は市有地）、京成バス営業所、市川市保健医療福祉センターがあり、休耕田がまとまって残っています。

右岸には大町自然観察園から水質良好な水路が流入し、近くに自噴湧水が残っています。近年統廃合となる市川北高等学校と小川再生ふれあい農園が隣接しており、同園では水田とレンゲ畑で市民参加型の農業体験が行われています。

## 【短期政策】

### 1) 市川北高校跡地利用計画

京成バスがあるのみで交通の便に問題があり、跡地利用は制限されます。

学校の周辺の状況は、市川市域では唯一まとまって水田耕作がなされている地域で、北側は小川再生ふれあい農園として市民参加型の水田耕作がなされています。また、休耕田（アシ原湿地）もまとまって残されている地域でもあります。これら立地を考慮し、前述の大柏川沿い農地の保全・再生に向けて、市民参加型地域農業構想を実現させるために、校舎と校庭を利用します。

#### (1) 市川「農の駅」の開設

市川市の地産地消を推進し、市民と生産者が交流のできる拠点を設けます。校舎を一部改装し、市民に地産地消の農産物の即売や食育に関する講義や料理教室等を開催します。

#### (2) 農業体験学校の開設

農業体験学校の農園として東側の校庭を野菜畑と水田に整備します。

小川再生親子ふれあい農園は対象が子供中心ですが、ここは主として高齢者や婦人を中心とした農業体験の場とします。

都市農地の保全・再生に向けて、農業体験学校で数年経験を積んだ卒業者は、農業指導マイスターとして大柏川沿いに設立された市民参加型農園（市民農園、オーナー制度農園、トラスト制度農園等）の指導者（有料ボランティア）になれます。

## 【中期政策】

### 1) 地区公園計画

市川市みどりの基本計画では大柏川浄化施設及び接する南側の農地（休耕田や荒地が多い）を将来の地区公園として位置づけており、「水と緑の回廊」の幹線軸となる重要な公園です。

#### (1) 現地の状況

市有地の大柏川浄化施設があり、南に接して休耕田、梨園、野菜畑、荒地となっていますが、大部分は休耕田と荒地です。対岸には自噴湧水と大町自然観察園からのコンクリート護岸の水路が流入し、都市計画道路を超えて市川北高等学校があります。

#### (2) 地区公園ゾーニング計画（別添図 - 4 参照）

地域の多様なニーズに応えながら、ビオトープを造成し積極的に水辺の自然環境を復元します。以下のようにゾーニングします。

##### 水と緑のビオトープゾーン

対岸の自噴湧水や流入水路も含めて、大柏川沿いをできるだけ水と緑を使った生物生息空間とする。

##### 多目的広場ゾーン

浄化施設は地下にあるので、芝生による多目的広場にする。

#### 子供プレイグランドゾーン

中央部分に子供たちが創意工夫をして遊べる広場を設ける。

#### スポーツ等グランドゾーン

南側に北東部住民が憩えるスポーツ施設を設ける。

#### 駐車場ゾーン

浄化施設は地下にあるので、地上を駐車場とする。

#### 管理ゾーン

東側市道からの入口部分を管理ゾーンとする。

### (3) 地区公園計画(別添図 5参照)

設計に際しては、以下を配慮します。

#### 水と緑のビオトープ

大柏川沿いは下流からの桜並木を受けて並木植栽をする。

左岸側はビオトープ池を作り、水源は浄水施設からの浄化水を引き込み、大柏川へ放流する。対岸へは遊歩道橋を設置し、水路を多自然型の草土手水路に改修する。また、自噴湧水は自噴位置が低いので、生物にやさしい空石積みによる螺旋通路を設け、自噴泉池の設計をする。

#### 大柏川浄化施設敷地

入口部分の地下浄化施設上は駐車場とし、川沿いを含め地下施設に関係のない部分は樹木を植栽し、できるだけ樹林の中に憩える多目的広場を設計する。

#### 子供プレイグランド

遊具施設はできるだけ少なくして、創意工夫ができる遊び空間を設計する。

#### スポーツグランド

サッカー、野球、グランドゴルフ等子供から高齢者まで使用できる、芝生の多目的スポーツ広場を設計する。